

第4学年 社会科学習指導案

日時 平成15年11月26日(水)

場所 二戸市立福岡小学校 視聴覚室

学級 4年2組(男子14名女子12名計26名)

指導者 中嶋 一良

- 1 単元名 5 きょうどにつたわるねがい
～(3) 今に生きる昔～

2 単元について

(1) 教材について

本単元は学習指導要領の内容(5)「地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。」を扱う。本中単元「(3)今に生きる昔」では、地域に昔から残る文化財や年中行事について調べ、人々がどのような願いや思いをもち、今も大切に受け継がれてきているのかを考えるようにすることをねらいとしている。

単元の構成にあたっては、子供たちになじみの深い二戸祭りを取り扱うことで、より課題意識を具体的にし、身近な人から、さらには二戸祭りにくわしい方へのインタビューを通して得た知識をまとめ、発表し、そして最後には、二戸祭り振興・継続のために尽力をつくした2人のゲストティーチャーの話と実際に太鼓を叩いてみるという体験活動を通して、本中単元のねらいにせまることができるようにした。

(2) 児童について

子供たちはこれまで、地域の発展に尽くした先人の具体的事例として、「相馬大作」について学習し、大作が二戸に残した「精神」や地域の人々の生活の向上に大きな影響を及ぼしたことを考えることができた。

また、古くから残るくらしにかかわる道具、それらを使っていたころのくらしの様子を調査、学習し、実際に洗濯板を使つての洗濯体験を通して、地域の人々の生活が変わってきたことや、過去の生活における人々の生活の知恵を考えることができた。

これらの学習の中で子どもたちは、課題追求のために積極的に調査をしたり、調べた内容を分かりやすくまとめたりすることができるようになってきた。しかし、まだまだ質的に深まった社会的思考・判断を持っているとはいえない。また、地域社会に対する誇りと愛情を育むことができるまでには至っていない。

(3) 指導について

本中単元では、二戸祭りを教材として取り上げるのだが、二戸祭りそのものの「よさ」だけを考えさせるのではなく、調査活動や、体験活動、ゲストティーチャーの話など、二戸祭りを継承してきた人々の願いや思いにふれさせる活動を通して、子供たちに「昔から今まで受け継がれていることのすばらしさ」を実感させたい。そして、地域社会の一員としての自覚をもって、来年の二戸祭りでは今年以上にはりきって活動に参加し、さらには二戸に対す

る誇りと愛情を育んで生活していこうとするきっかけとしたい。

また、本時においては、各活動の後に自分の考えを書き、それをもとに学び合いをするという活動を取り入れることで、友達の発表を聞きながら、自分の考えを再構築することができたり（判断基準 B に到達するための手立て）、自分の考えを深め、社会的思考・判断力を質的に高めたりすることができるようにしていきたい。

次に、子供たちがゲストティーチャーとより深く関わるよう考慮し、積極的に授業に参加していただくようにした。子供たちが自分の考えを書く場面では、ゲストティーチャーにも見ていただき、本人から「おお、いい考えだね」などといった言葉をかけてもらったり、学び合いの場面でも「〇〇さんがすごくいい考えを発表してくれたね」などといった評価をしていただいたりすれば、より自分の考えは高まり、その子の自信にもつながると考えたからだ。担任から、友達から、そしてゲストティーチャーから、自分の考えを評価してもらうことで、自分の考えも高まり、さらにはゲストティーチャーとの関わりも深まり、そして、「二戸」という地域への愛着も高まっていくのではと考える。

3 単元の目標及び評価規準

(1) 単元の指導目標

(関心・意欲・態度)

身近な地域の歴史を伝えるものに関心を持ち、実際にさがしたり調べたりするとともに、それらを大切にしようとする。

(社会的思考・判断)

地域の文化財や行事から、この地域の人々がどのような願いや思いをもつてくらしについて考えることができる。

(観察・資料活用の技能・表現)

地域の文化財や行事について調べたり考えたりしたことを、新聞や年表などに工夫して表現することができる。

(知識・理解)

地域には、文化財や行事など、よりよいくらしを願う人々の思いが込められたものが、今も大切に伝えられていることがわかる。

(2) 評価規準

| 時 | 小単元 | 関心・意欲・ 態度 | 社会的思考・判断 | 観察・資料活用の 技能・表現 | 知識・理解 |
|--------|----------------|--|------------------------------|-------------------------------------|------------------------|
| 1 2 | ① たくさんあるぞ二戸の祭り | 二戸の祭りについて関心を持ち、二戸祭りについて調べていこうとする意欲をもつ。 | | | |
| 3 4 | ② 調べてみよう二戸祭り | | 二戸祭りについてもっと知りたいことを考えることができる。 | 身近な人物にインタビューをしたり、メモをとってまとめたることができる。 | 二戸祭りについての知識を増やすことができる。 |

| | 小単元 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断 | 技能・表現 | 知識・理解 |
|-------------|------------------|--|--|--|--|
| 5 6 7 | ③ もっと調べてみよう二戸祭り | 分からなかったことを解決したいという意欲をもつ。 | | 二戸祭りにくわしい人にインタビューをしたり、メモをとってまとめたりすることができる。 | |
| 8 9 | ④ 調べたことをまとめよう | | まとめたものに、二戸祭りについての感想を書くことができる。 | 調べたことを分かりやすく新聞や年表などにまとめることができる。 | 友達と意見を交流しながらまとめることで、二戸祭りについての知識を深めることができる。 |
| 10 11 | ⑤ みんなで発表しよう | | 友達の発表を聞いて考えを深め、二戸祭りについての考えを書くことができる。 | まとめたことを、友達に分かりやすく伝えることができる。 | |
| 12 | ⑥ こめられている願い (本時) | | 2人のゲストティーチャーの話や実際に太鼓をたたく体験を通して、二戸の人々の、祭りに対する思いや願いを考えることができる。 | | |
| 13 | ⑦ 単元のまとめ | (4つの観点を含む総合的な学習) 今まで学習してきた二戸の先人「相馬大作」、昔の二戸の人々が使っていた道具、そして二戸祭りを振り返って、『こんなにもすばらしい二戸をどうしていきたいか』を考え、簡単な新聞や手紙、レポートなどにまとめることができる。 | | | |

4 指導計画 (13時間)

- ① たくさんあるぞ二戸の祭り… (2)
- ② 調べてみよう二戸祭り… (2)
- ③ もっと、調べてみよう二戸祭り… (3)
 - ・ 呑香稲荷神社 小保内さんへのインタビュー
 - ・ シビックセンター 小保内さんへのインタビュー
 - ・ スルメおじさん 阿部さんへのインタビュー
- ④ 調べたことをまとめよう… (2)
- ⑤ みんなで発表しよう… (2)
- ⑥ こめられている願い… (1) 本時12/13
- ⑦ 単元のまとめ… (1)

5 本時の指導について

(1) 本時の目標

二戸の人々の、祭りに対する思いや願いを考えることができる。

(2) 展開

| 段階 | 時間 | 学習内容 | 教師の指導・支援 | ◎評価の観点及び評価の方法 |
|------------------|-----|---|--|---|
| とらえる | 2分 | 1 前時の活動を想起する。 2 学習課題をつかむ。 二戸の人々はどんな思いで祭りを続けてきたのか考えよう。 | ・前時までの学習を振り返る。 (年表の提示) | |
| 追 求 す る | 50分 | 3 学習の見通しを立てる。 4 浪岡正行さんの話を聞いて、自分の考えをもつ。 ・浪岡正行さんの話 ・考えカードを書く ・発表し合う 5 奥ともりのりさんの話を聞いて自分の考えをもつ。 ・奥ともりのりさんの話 ・考えカードを書く ・発表し合う 6 太鼓をたたく活動を通して自分の考えを深める。 ・全員がたたく ・考えカードを書く 7 学び合う。 ・考えたことを発表し合う ・まとめカードを書く。 ・自分のまとめカードをもとに発表する。 | ・年表と照らし合わせながら、ゲストティーチャーを紹介する。 ・児童と和やかに話ができたり、太鼓がたたけたりできるような雰囲気を作る。 ・考えカードはできるだけたくさん書かせ、思考を深めさせる。 ・ゲストティーチャーにも子供たちの活動を見てもらい、一言声かけをしてもらう。 ・発表したものを簡条書きで黒板にまとめていく。 ・2人組になることを指示し、ゲストティーチャーの指導のもとに太鼓をたたかせる。 ・どんな考えでも認め、みんなで高め合う雰囲気を作る。 ・高め合った考えをじっくりとまとめカードに書かせる。 ・ゲストティーチャーからも、がんばりを認めてもらう。 | ◎思考・判断1 祭りに対する思いや願いを考えることができる。 (考えカード・発表) ◎思考・判断2 祭りに対する思いや願いを考えることができる。 (考えカード・発表) ◎思考・判断3 祭りに対する思いや願いを考えることができる。 (発表・うなずき・まとめカード) |
| ま と め る | 8分 | 8 学習のまとめをする。 二戸祭りには、昔から今までたくさんの人々のいろいろな思いがこめられている。 9 感想を発表する。 | ・まとめカードや黒板をもとに、本時のまとめを作らせる。 ・感想発表だけでなく、ゲストティーチャーからも激励の言葉をいただく。 | |

(3) 本時の具体的評価規準

| | A 十分満足できる | B おおむね満足できる | Bに到達するための 手立て |
|------------------|---|--|---|
| 社会的 思考・ 判断 | <p>二戸の人々の祭りに対する思いや願いを考慮することができるだけでなく、自分自身に置き換えて考慮することができる。</p> <p>具体的には、学び合いの場面での発表やまとめカードを書く場面などで、浪岡さん、奥さんの気持ちをふまえて、来年の祭りへの意気込みや、思いや願いを受け継いでいこうとする気持ちの内容を、書いたり発表したりすることができる。</p> | <p>二戸の人々の、祭りに対する思いや願いを考慮することができる。</p> <p>具体的には、各活動後に書く考えカードや、学び合いの場面での発表、まとめカードを書く場面などで、浪岡さんや奥さんの、祭りに対する思いや願いにふれた内容を書いたり、発表したりすることができる。</p> | <p>各活動後に書く考えカードの内容から把握し、次の活動では積極的に活動するよう支援する。</p> <p>また、学び合いの場面で、友達の発表を聞くことで、自分自身の考えをふくらませ、まとめカードの内容の質を高める。</p> <p>感想発表の場面では、そのがんばりを認め、みんなに紹介したい。</p> |

(4) 板書計画

